

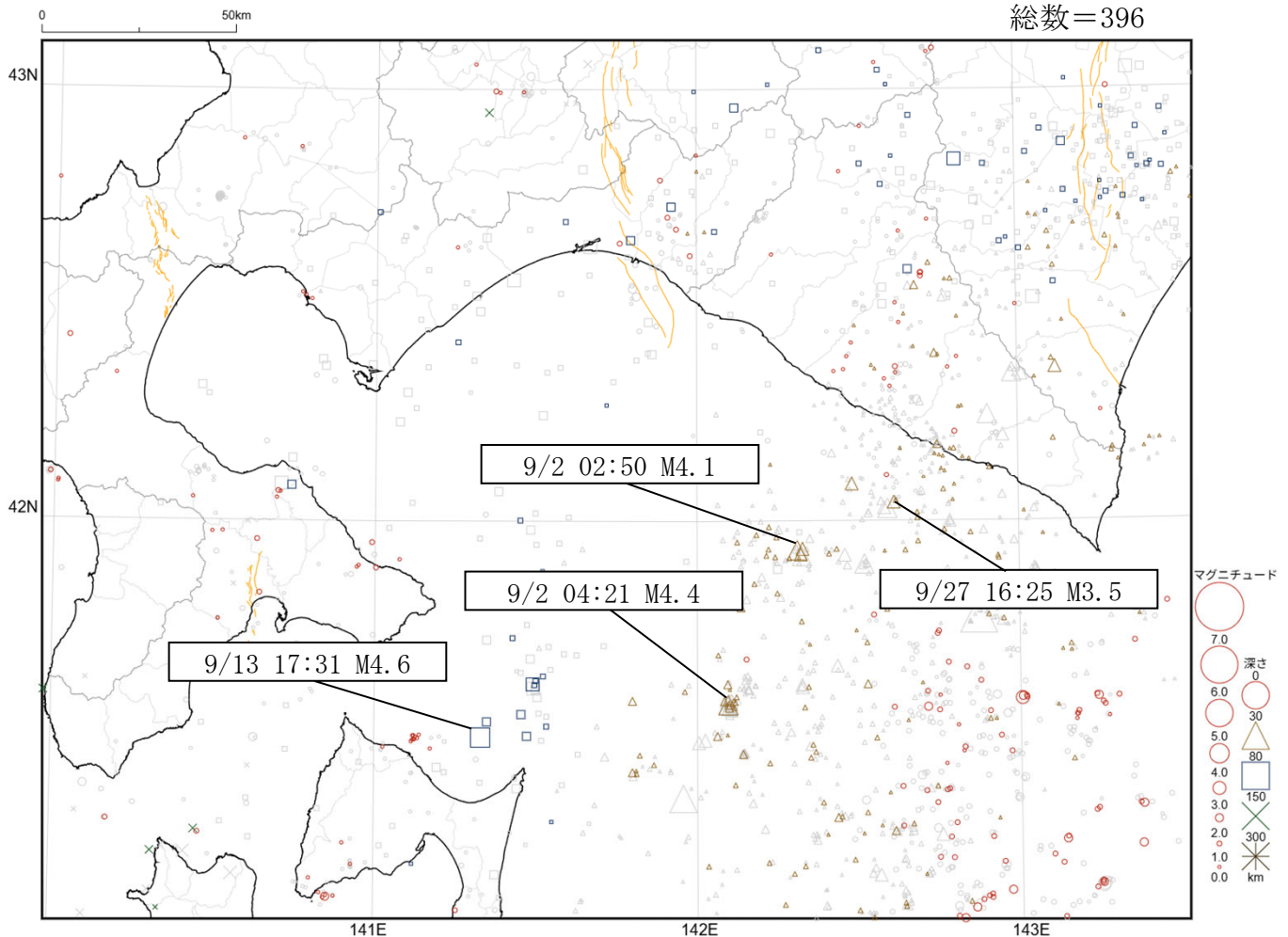
胆振・日高地方の地震活動図

2026年9月

室蘭地方気象台

震央分布図

総数=396



- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年9月）

この期間、胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回（8月は13回）で主な地震は以下のとおりです（「胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

2日02時50分、浦河沖の地震（M4.1、深さ68km）により、胆振・日高地方の7町で震度1を観測しました。

2日04時21分、青森県東方沖の地震（M4.4、深さ54km）により、様似町、えりも町で震度1を観測しました。

6日14時15分、青森県東方沖の地震（M4.8、深さ39km、震央分布図の範囲外）により、厚真町、むかわ町で震度1を観測しました。

13日17時31分、津軽海峡の地震（M4.6、深さ121km）により、白老町、むかわ町で震度2を観測したほか、胆振・日高地方の11市町で震度1を観測しました。

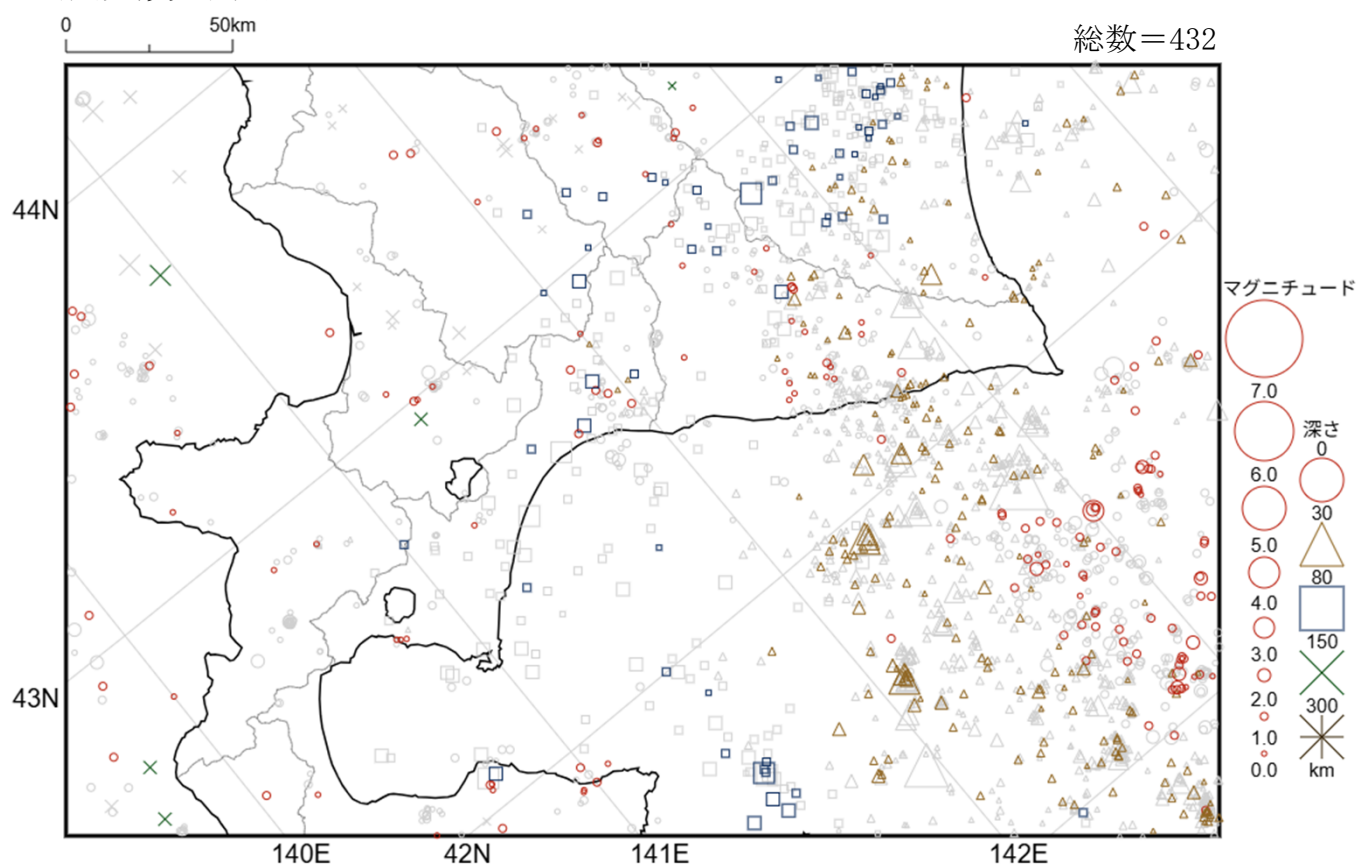
この活動図は、室蘭地方気象台のホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/muroran/>

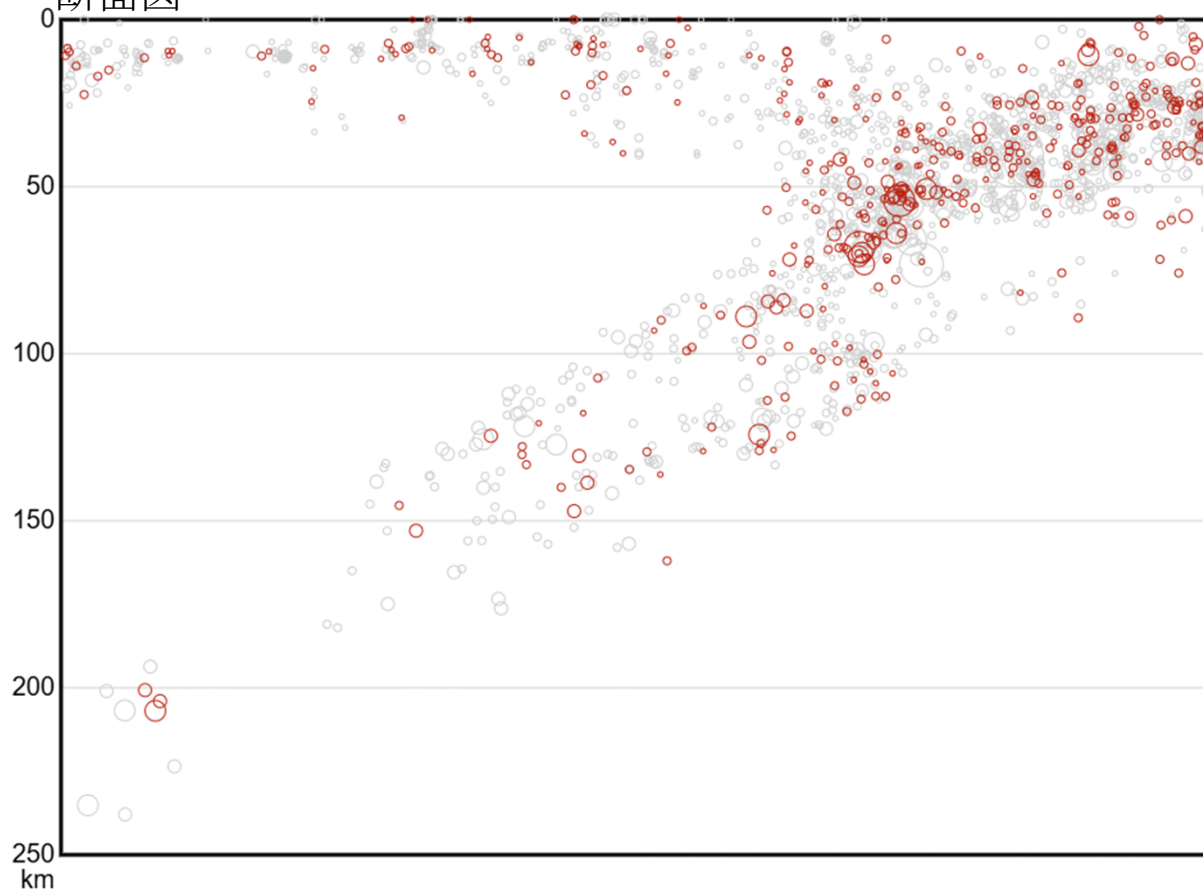
この資料に関する問い合わせ先 室蘭地方気象台 TEL 0143-22-4249

2026年9月

震央分布図



断面図

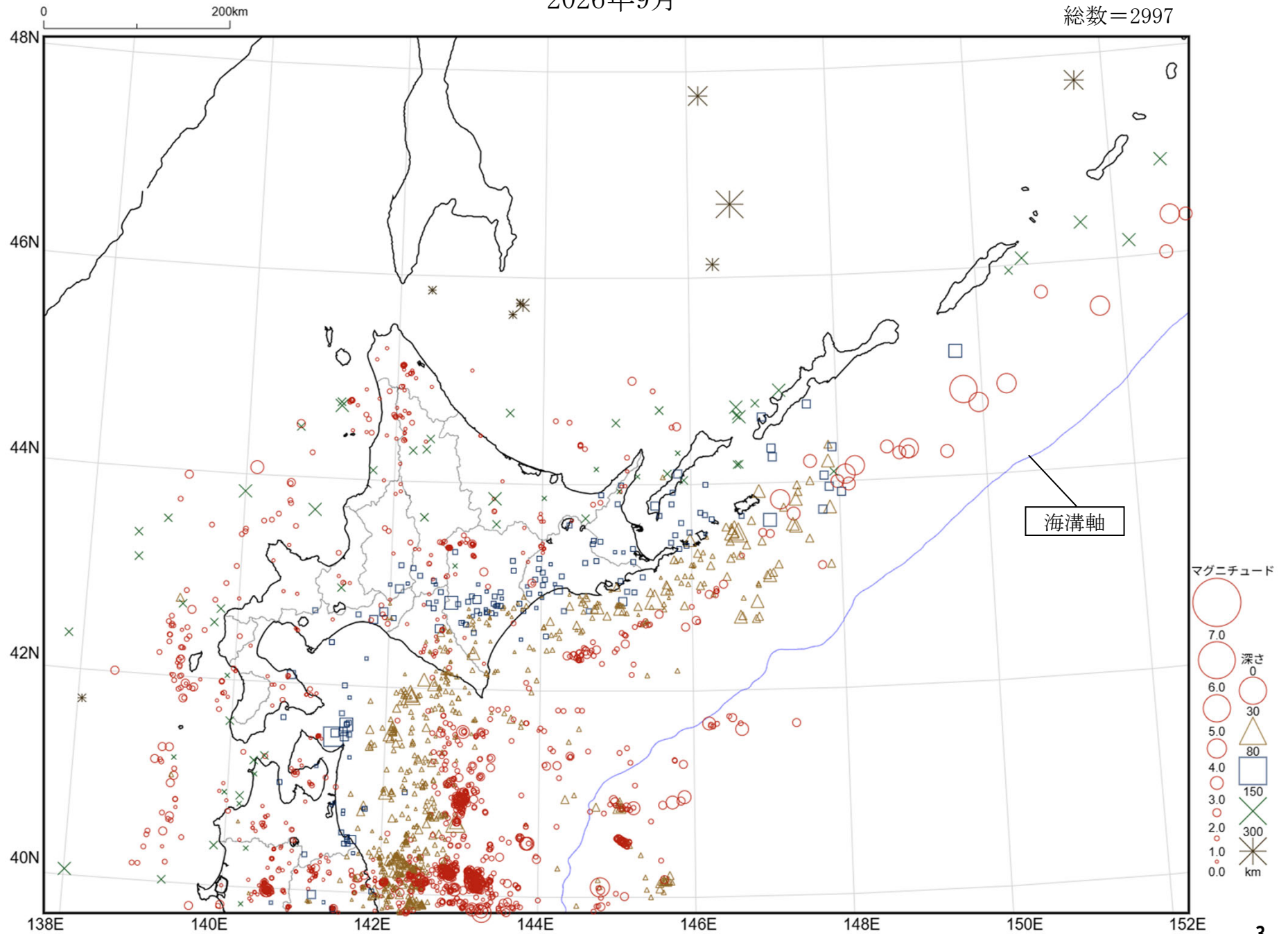


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年9月

総数=2997



胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表 (2026年9月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2026年 9月 2日 胆振地方 日高地方	02時50分 震度 1 震度 1	浦河沖 厚真町鹿沼 (06) 安平町追分柏が丘* (07) 新ひだか町静内山手町 (11) 新ひだか町静内御幸町* (08) 浦河町潮見 (10) 浦河町築地* (08) 様似町栄町* (11) えりも町えりも岬* (11)	41° 55.9' N	142° 18.6' E	68 k m	M4.1
2	2026年 9月 2日 日高地方	04時21分 震度 1	青森県東方沖 様似町栄町* (09) えりも町えりも岬* (07)	41° 34.5' N	142° 05.6' E	54 k m	M4.4
3	2026年 9月 6日 胆振地方	14時15分 震度 1	青森県東方沖 厚真町鹿沼 (05) むかわ町松風* (07)	40° 42.5' N	142° 56.2' E	39 k m	M4.8
4	2026年 9月13日 胆振地方 日高地方	17時31分 震度 2 震度 1 震度 1	津軽海峡 白老町竹浦 (17) むかわ町穂別* (16) 胆振伊達市梅本 (06) 胆振伊達市大滝区本町* (06) 室蘭市寿町* (13) 登別市鉦山 (07) 登別市桜木町* (06) 厚真町鹿沼 (11) 安平町早来北進* (12) 安平町追分柏が丘* (10) むかわ町松風* (12) 日高地方日高町門別* (11) 平取町振内* (10) 新冠町北星町* (11) 新ひだか町静内山手町 (10) 新ひだか町静内御幸町* (09) 新ひだか町三石旭町* (12) 浦河町野深 (06) 浦河町潮見 (10) 浦河町築地* (07) 様似町栄町* (10)	41° 30.0' N	141° 19.7' E	121 k m	M4.6
5	2026年 9月27日 日高地方	16時25分 震度 1	浦河沖 新ひだか町三石旭町* (05)	42° 02.6' N	142° 36.7' E	64 k m	M3.5

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

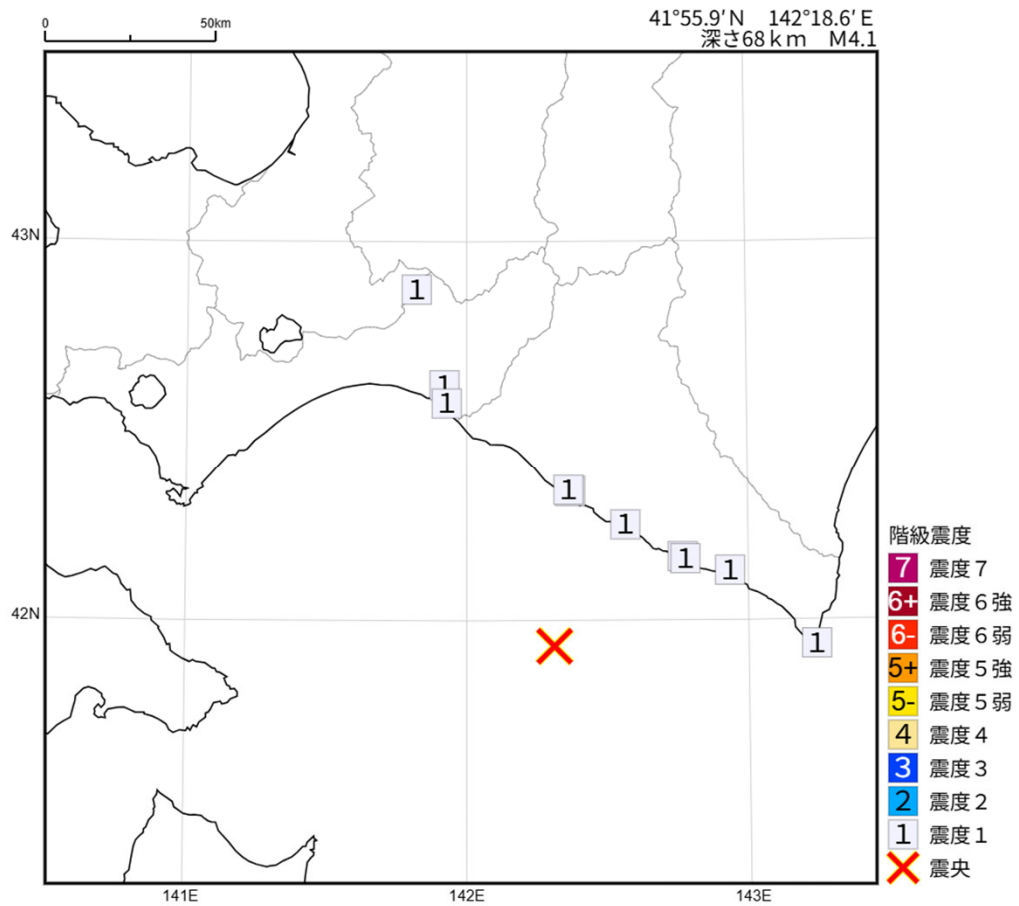
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

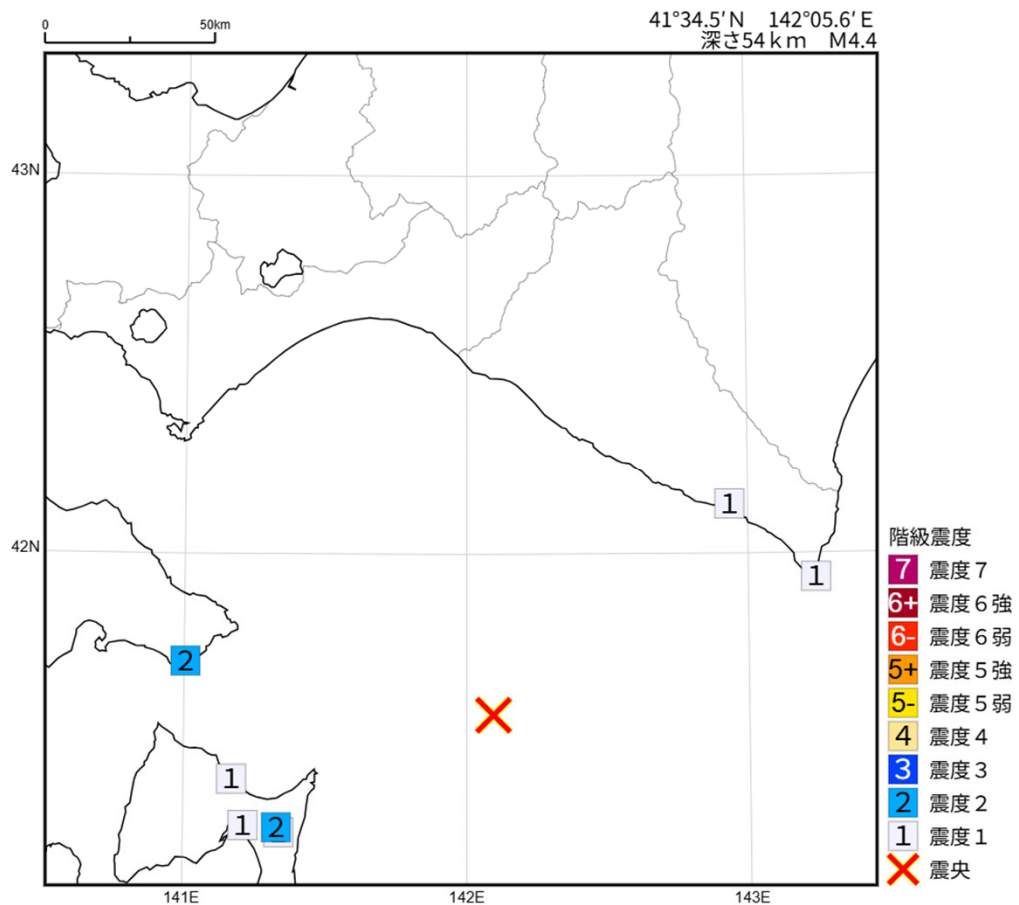
本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

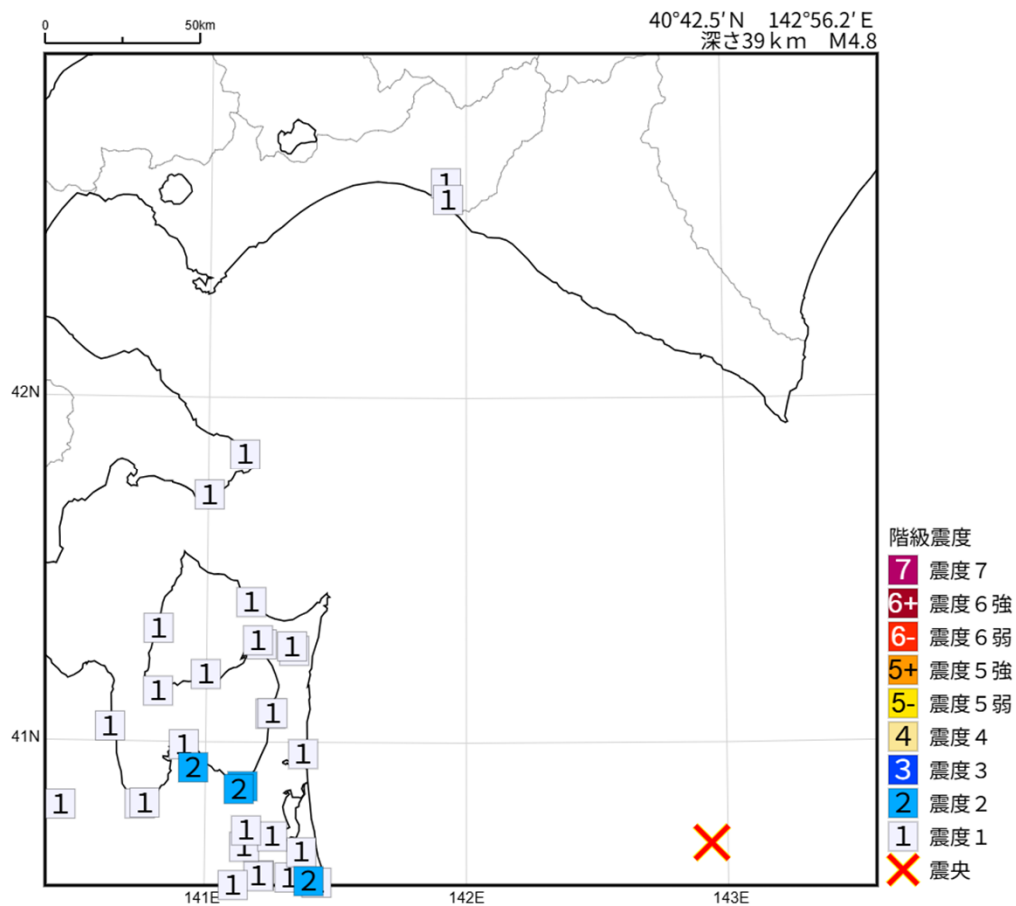
2026年 9月 2日 02時50分 浦河沖の地震の震度分布図



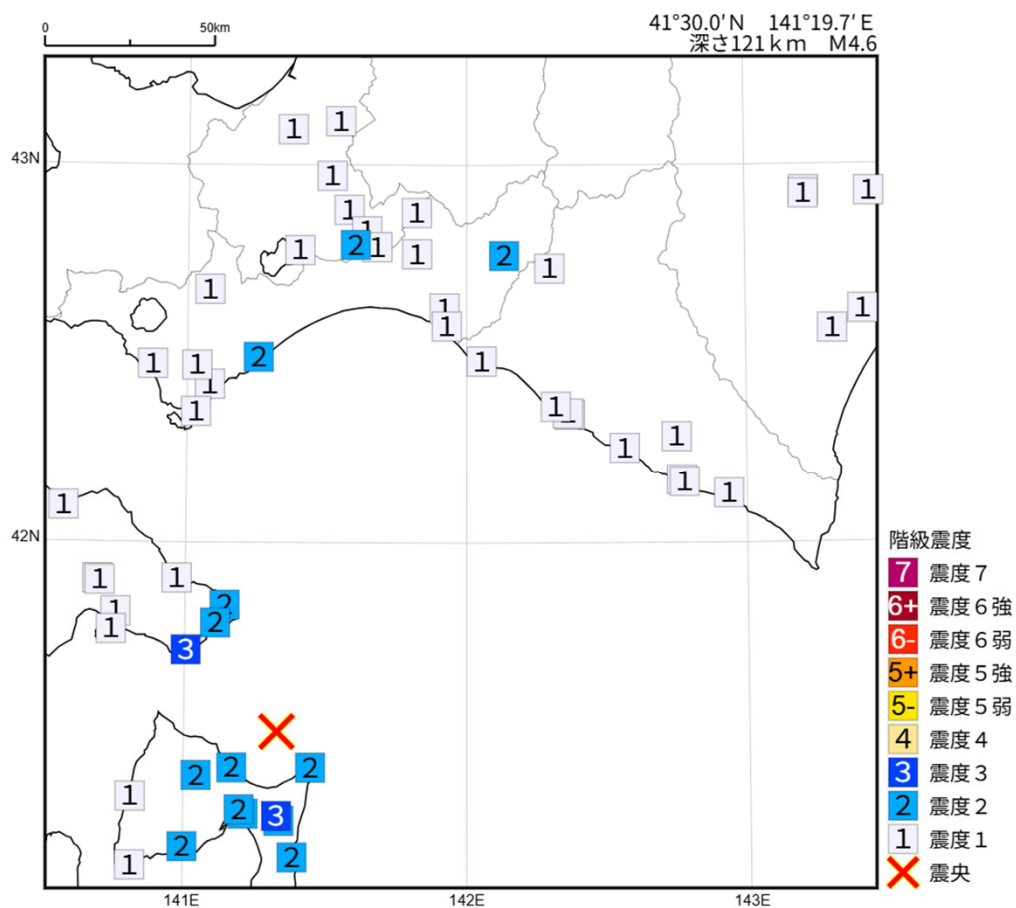
2026年 9月 2日 04時21分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2026年 9月 6日 14時15分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2026年 9月13日 17時31分 津軽海峡の地震の震度分布図



【防災メモ】

～11月5日は津波防災の日・世界津波の日～

●津波防災の日・世界津波の日とは

平成23年（2011年）3月11日に発生した東日本大震災を教訓として、同年6月に津波対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とした「津波対策の推進に関する法律」が制定されました。その中で、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるために、11月5日を「津波防災の日」とすることが定められました。11月5日（旧暦）は安政元年（1854年）に、「稲むらの火」^{*1}のモデルとなった安政南海地震が発生した日です。さらに、平成27年の国連総会では11月5日を「世界津波の日」とすることが採択され、津波防災の取り組みが始まりました。

※1「稲むらの火」

海辺の村を大津波が襲った際、村の郷土が積み上げられた稲束の「稲むら」に火を放ち、暗闇の中で多くの村人を高台に導いて救ったという物語。戦前の国語教科書に掲載され、現在も津波防災教材として国内外で高く評価されています。

●緊急地震速報訓練に参加しましょう

津波から安全に避難するためには、まず地震の揺れでけがをしないことが大切です。緊急地震速報はそのために役に立つ情報であり、訓練に参加して実際に体を動かす経験をしておくことで、とっさの時に安全行動を取りやすくなります。毎年11月5日の「津波防災の日」やその前後には、緊急地震速報の全国的な訓練を国の機関や地方公共団体のほか、学校、民間企業等や個人にも幅広く呼びかけて実施しています（「シェイクアウト訓練」^{*2}が行われる場合もあります）。もしもの時にご自分の命を守るため、積極的にご参加ください。

（今年度の訓練はこちら <https://www.data.jma.go.jp/ew/data/nc/kunren/kunren.html>）

※2「シェイクアウト訓練」

2008年にアメリカで始まった地震防災訓練で、同じ日時に参加者が一斉に、地震から身を守るための3つの安全行動（右図）を各人がいる場所（職場、学校、外出先等）で約1分間行うものです。



出典：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議 (<http://www.shakeout.jp/>)

●津波から身を守るために

津波警報等を見聞きした時、強い揺れを感じた時はすぐに高いところへ避難！

危険な場所を確認しよう

津波に襲われる恐れのある場所をハザードマップや周辺地形から確認しておきましょう。



津波注意

避難場所を確認しよう

津波避難ビルや津波避難場所がどこにあるか、また避難経路などを周りの人と確認しておきましょう。



津波避難ビル・津波避難場所

避難訓練に参加しよう

実際に避難経路をたどってみるなど、積極的に訓練に参加しましょう。

